

第3回 生駒市都市計画マスタープラン及び景観計画策定委員会

資 料

〈まちづくりの主要課題と目標(案)〉

平成 21 年 8 月 31 日

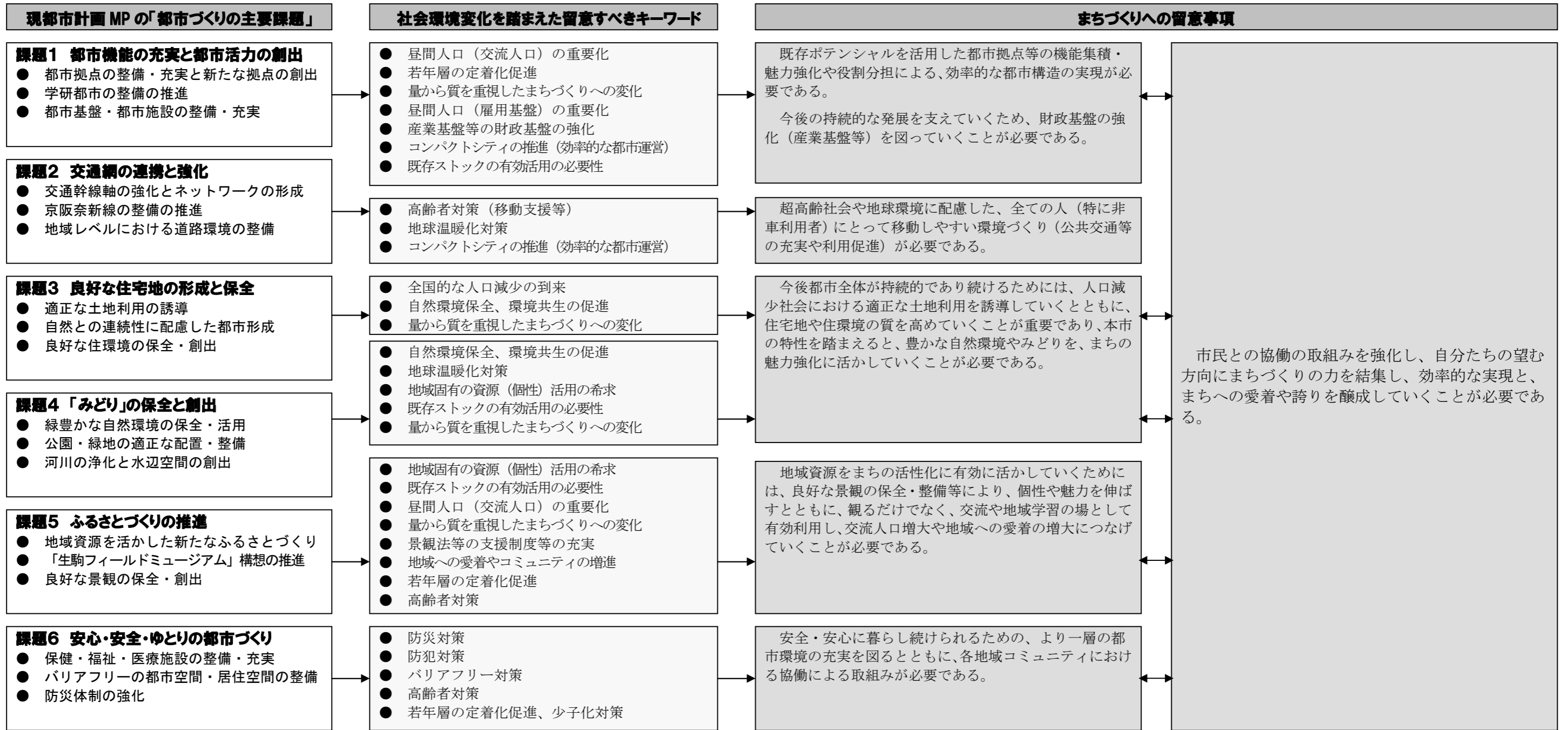
1) 現計画策定後の施策実施状況を踏まえた、まちづくりへの留意事項について



2) 市民意向を踏まえた、まちづくりへの留意事項について

現都市計画 MP の「都市づくりの主要課題」	市民意向調査結果 (下線箇所は、経年変化)	まちづくりへの留意事項
課題1 都市機能の充実と都市活力の創出 <ul style="list-style-type: none"> ● 都市拠点の整備・充実と新たな拠点の創出 ● 学研都市の整備の推進 ● 都市基盤・都市施設の整備・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “<u>日常の買物の便利さ</u>” への不満度は若干減少しているが、今後の重要度は依然高い。 ・ “駅前”の景観” への評価は低く、“駅前や商店街の魅力ある景観形成” や “道路や公園等の緑化・美化” が望まれている。 ・ “駅周辺で日常的に必要な店舗・サービス施設などの集積が少ない” など、拠点駅の交通条件を活かした都市機能の充実も望まれている。 ・ 商業・業務機能について、“郊外” や “鉄道駅周辺” など、商業・業務用地開発への支持が高い。 ・ “住宅地内で日常生活に必要な店舗・サービス施設等が乏しく不便だ” との要望も高い。 	<p>生駒駅前やけいはんな線の新駅周辺の開発等に伴う商業機能の整備もあり、“日常の買物の便利さ” への不満度は若干減少しているが、今後の重要度は高い。</p> <p>“駅前”の景観” への評価は低く、“駅前や商店街の魅力ある景観形成” が望まれており、玄関口等における質の高い景観・環境形成への要望が高い。</p> <p>一方で、中心駅だけでなく、“駅周辺で日常的に必要な店舗・サービス施設などの集積が少ない” や “住宅地内で日常生活に必要な店舗・サービス施設等が乏しく不便だ” など、身近な駅周辺における商業サービス機能充実への声も高く、留意すべきである。</p>
課題2 交通網の連携と強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 交通幹線軸の強化とネットワークの形成 ● 京阪奈新線の整備の推進 ● 地域レベルにおける道路環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “<u>道路・交通機関の発達した便利なまち</u>” という本市のイメージが上昇している。 ・ “路上駐車・駐輪対策” への要望が高い。 ・ “歩行者が歩きやすい歩道の整備” に対する要望が高い。 ・ “<u>バス路線の整備</u>” の重要度が増加している。 	<p>けいはんな新線・新駅や関連道路基盤等もあり、“道路・交通機関の発達した便利なまち” という本市のイメージが上昇しており、道路・交通環境整備の一定の効果が伺える。</p> <p>車の交通に対応した幹線道路整備よりも、歩道の整備や、駐車・駐輪対策に関する要望が相対的に高い。</p> <p>一方で、全体の中での重要度は上位でないものの、高齢化を受けて、バスサービスへの要望が増大しており、留意が必要である。</p>
課題3 良好な住宅地の形成と保全 <ul style="list-style-type: none"> ● 適正な土地利用の誘導 ● 自然との連続性に配慮した都市形成 ● 良好な住環境の保全・創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の将来像について、“自然や緑の豊かな住宅街の広がるまち” が最も高く、住まいの地域の将来像についても、“豊かな自然と調和した、やすらぎある地域” を望む声も高い。 ・ 一方では、将来取り組むべき課題として、“開発などにより身近な自然環境が減少しつつある” が最も高く、住まいの地域の土地利用の問題として、“自然や農地などの緑が減少し、環境や景観が悪くなった” とする声が高い。 	<p>市の魅力や将来像について、自然や緑の豊かさをあげる声が高いものの、“開発などにより身近な自然環境が減少しつつある” や “自然や農地などの緑が減少し、環境や景観が悪くなった” とする声が高く、生駒市の最大の魅力および住宅都市の付加価値として、自然や緑の保全の重要度は極めて高い。</p> <p>自然の保全のみならず、“農地の保全” や “まちなかの緑化” に関する重要度が増加しており、身近な生活環境の中で、うるおいや安らぎを求める声も伺える。</p>
課題4 「みどり」の保全と創出 <ul style="list-style-type: none"> ● 緑豊かな自然環境の保全・活用 ● 公園・緑地の適正な配置・整備 ● 河川の浄化と水辺空間の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生駒山・矢田丘陵を中心とする豊かな緑資源は、市民にとっての「好ましい自慢できる景観」の第1位として突出しており、住宅都市の付加価値の大きな要因となっている。 ・ 宅地開発に伴い自然環境の減少が進み、“自然や農地などの緑が減少し、環境や景観が悪くなった” といった意見が多く、“<u>自然環境の保全</u>” “<u>農地の保全</u>” “<u>まちなかの緑化</u>” に関する重要度が増加している。 ・ “ジョギングや散歩が楽しめる緑道等の整備” や “自然と親しめる公園の整備” の要望が高い。 ・ “まちなかの緑化推進” “身近な公園や広場の整備” “既存の公園・広場の周辺緑化・美化” などへの市民要望が高い。 ・ “河川・ため池などの水辺景観” への市民評価が低い。 	<p>“身近な公園や広場の整備”、“既存の公園・広場の周辺緑化・美化”、“河川・ため池などの水辺景観” など、既存資源を活かした取り組みへの要望が高い。</p> <p>“ジョギングや散歩が楽しめる緑道等の整備” や “自然と親しめる公園の整備” の要望が高いなど、自然とのふれあいや健康志向に対するニーズも伺え、留意が必要である。</p> <p>自然・歴史的資源の保全だけでなく、その活用を望む声が高く、また、“まちなみの美しさなど景観のよさ” に対する要望が高く、交流・体験空間としての活用や、景観への取り組みの強化が必要である。</p> <p>また、地域資源の保全に関して、“屋外広告物の景観” や “ごみの不法投棄” への懸念が伺え、適切な対応が必要である。</p>
課題5 ふるさとづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域資源を活かした新たなふるさとづくり ● 「生駒フィールドミュージアム」構想の推進 ● 良好な景観の保全・創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然・歴史的資源の保全や活用を望む市民の声が高い。 ・ “まちなみの美しさなど景観のよさ” に対する要望が高い。 ・ “屋外広告物の景観” への市民評価の低さや、“ごみの不法投棄の規制” に対する市民要望の高さなど、より良いかたちで地域資源を守り育てるための取り組みの強化も望まれている。 	<p>“バリアフリー化” に関する項目で満足度が上昇しており、一定の施策実施効果が伺えるが、高齢社会の影響もあり、依然として要望が高い。</p> <p>“災害や犯罪” 対策や “福祉のまち” への要望が全般的に高く、防災・防犯や医療・福祉等に関する問題意識が高くなっており、適切な対応が必要である。</p>
課題6 安心・安全・ゆとりの都市づくり <ul style="list-style-type: none"> ● 保健・福祉・医療施設の整備・充実 ● バリアフリーの都市空間・居住空間の整備 ● 防災体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “災害や犯罪に対し安心・安全に暮らせるまち” や “高齢者や障がい者がいきいきと暮らせる福祉のまち” への市民要望が高いなど、防災・防犯や医療・福祉等に関する問題意識が高くなっており、適切な対応が望まれる。 ・ “<u>バリアフリー化</u>” に関する項目で満足度が上昇しているが、依然として “公共施設や駅舎・駅周辺等における歩道の段差解消、エレベーター設置など” や “バリアフリー化 (高齢者や障がい者に配慮した道路の段差の解消等)” に対する要望が高い。 	<p>“バリアフリー化” に関する項目で満足度が上昇しており、一定の施策実施効果が伺えるが、高齢社会の影響もあり、依然として要望が高い。</p> <p>“災害や犯罪” 対策や “福祉のまち” への要望が全般的に高く、防災・防犯や医療・福祉等に関する問題意識が高くなっており、適切な対応が必要である。</p>

3) 社会環境変化を踏まえた、まちづくりへの留意事項について



市民との協働の取組みを強化し、自分たちの望む方向にまちづくりの力を結集し、効率的な実現と、まちへの愛着や誇りを醸成していくことが必要である。

- ★ 総合計画における社会環境変化の基本認識
- 少子・高齢化の進行
 - 地球環境問題の深刻化
 - 安全・安心への不安の高まり
 - 若年層や子育て世代における雇用問題
 - 地域コミュニティの変化
 - 地方自治制度の改革
 - 教育の方向性を見直し
 - 社会保障制度の改革

- 1) 少子高齢社会の到来**
 - 長期的な人口減少社会の到来を見据えた対策の必要性
 - 高齢者対策（移動支援等）
 - 若年層の定着化促進・少子化対策
 - 昼間人口（雇用基盤・交流人口）の重要化
- 2) 環境配慮や持続可能なまちづくりの重要性**
 - 地球温暖化対策
 - 自然環境保全、環境共生の促進
 - コンパクトシティの推進（効率的な都市運営）
- 3) 安全・安心ニーズの高まり**
 - 防災対策
 - 防犯対策
 - バリアフリー対策
- 4) 景観や質を重視したまちづくりニーズの高まり**
 - 量から質を重視したまちづくりへの変化
 - 地域固有の資源（個性）活用の希求
 - 景観法等の支援制度等の充実
- 5) 効率的効果的な都市運営の必要性**
 - 産業基盤等の財政基盤の強化
 - 既存ストックの有効活用の必要性
 - 協働の取組み活性化の重要性
- 6) 市民参加・市民自治の必要性**
 - 市民の役割の重要化
 - 地域への愛着やコミュニティの増進
 - 市民パワーの活用

- 協働の取組み活性化の重要性
- 市民の役割の重要化
- 地域への愛着やコミュニティの増進
- 市民パワーの活用

4) まちづくりの主要課題(修正案)について

まちづくりへの留意事項

施策の実施状況

守るべき民有緑地の保全や、まちなか緑化の推進、既存公園等の魅力化、水辺空間の整備など、支援制度の充実も含めて、協働の取り組みの活性化と、整備効果の高い資源・地区等への重点投資が必要である。

今後も特色ある既存資源を活かした地域の魅力づくりとネットワーク化を有効に進めていくためには、箱モノ等の拠点整備に重点投資していく形ではなく、緑化・景観形成・環境美化・交流活動等の協働の取り組みを活性化し、その取り組みを有効に支援していく形で、段階的に実現を目指していくことが必要である。

今後、より一層適正な土地利用の誘導と良好な住宅地の形成を図っていくためには、地区計画制度や各種協定など、既存制度の活用促進とともに、地域課題によっては、景観計画に基づく景観規制等の導入検討など、新たなルールづくりや制度拡充の検討を図っていくことが必要である。

超高齢社会の進展や災害等に備え、今後も重要度の高い施策について、着実な実施が必要である。下水道整備など、身近な生活環境の充実が必要である。

自然との共生や拠点機能の分担等に十分な留意した高山第2工区の開発検討や、産業機能の強化に資する北田原地区等の企業誘致の適切な誘導、主要駅周辺の機能充実などが必要である。

交通基盤については、未着手都市計画道路の整備(都市計画道路の見直し含む)や、歩道整備、既成市街地等の狭隘な生活道路の拡幅、市域全体におけるバスネットワークの充実など、地域・地区の実情に応じた整備を順次進めていくことが必要である。

守るべき民有緑地の保全や、まちなか緑化の推進、既存公園等の魅力化、水辺空間の整備など、支援制度の充実も含めて、協働の取り組みの活性化が必要である。

今後も特色ある既存資源を活かした地域の魅力づくりとネットワーク化を有効に進めていくためには、緑化・景観形成・環境美化・交流活動等の協働の取り組みの活性化が必要である。

今後、より一層適正な土地利用の誘導と良好な住宅地の形成を図っていくためには、既存制度の活用促進や、新たなルールづくり・制度拡充の検討を図っていくことが必要である。

市民意向調査結果

生駒市の最大の魅力および住宅都市の付加価値として、自然や緑の保全の重要度は極めて高い。

“農地の保全”や“まちなかの緑化”に関する重要度も増加。

既存資源(既存の公園・広場・河川・ため池など)を活かした緑化・美化等の取り組みへの要望が高い。

自然とのふれあいや健康志向に対するニーズも伺え、留意が必要。

自然・歴史的資源について、保全だけでなく、交流・体験空間としての活用への要望が高い。

“屋外広告物の景観”や“ごみの不法投棄”への懸念が伺え、地域資源保全への適切な対応が必要。

“バリアフリー化”は、一定の施策実施効果が伺えるが、高齢社会の影響もあり、要望が高い。

“災害や犯罪”対策や“福祉のまち”への要望が全般的に高く、防災・防犯や医療・福祉等に関する問題意識が高くなっており、適切な対応が必要。

“日常の買物の便利さ”への不満度は若干減少しているが、今後の重要度は高い。

“駅前や商店街の魅力ある景観形成”など玄関口等における質の高い景観・環境形成への要望が高い。

一方で、中心駅だけでなく、身近な駅周辺における日常的な商業サービス機能充実への声も高い。

幹線道路整備よりも、歩道の整備や、駐車・駐輪対策に関する要望が相対的に高い。

一方で、全体の中での重要度は上位でないものの、高齢化を受けて、バスサービスへの要望が増大。

社会環境変化

人口減少社会における適正な土地利用を誘導していくとともに、住宅地や住環境の質を高めていくことが重要であり、本市の特性を踏まえると、豊かな自然環境やみどりを、まちの魅力強化に活かしていくことが必要である。

地域資源をまちの活性化に有効に活かしていくためには、良好な景観の保全・整備等により、個性や魅力を伸ばすとともに、観るだけでなく、交流や地域学習の場として有効利用し、交流人口増大や地域への愛着の増大につなげていくことが必要である。

安全・安心に暮らし続けられる都市環境の一層の充実が必要である。

都市拠点等の機能集積・魅力強化や役割分担による、効率的な都市構造の実現が必要である。
財政基盤強化(産業基盤等)が必要である。

超高齢社会や地球環境に配慮した、全ての人(特に非車利用者)にとって移動しやすい環境づくり(公共交通等の充実や利用促進)が必要である。

市民との協働の取り組みを強化し、自分たちの望む方向にまちづくりの力を結集し、効率的な実現と、まちへの愛着や誇りを醸成していくことが必要である。

まちづくりの主要課題(修正案) ※ゴチックが主な修正箇所

課題① 地域資源の保全と最大活用による定住環境の魅力化と交流活性化

- まちの魅力の骨格を形成する、山林を中心とする良好な自然環境・景観の保全の推進とともに、そのための景観・ごみ対策等の推進、及び自然環境との良好な共生に留意した都市的土地利用の規制誘導を図っていくことが必要です。

- まちなかの緑化や清掃・美化の推進、既存公園の活用促進、水辺の美化など、利用頻度の高いまちなかのアメニティの向上を図っていくことが必要です。

- 樹林・水辺・田園・歴史資源など、多彩な特色ある地域資源について、効果的効率的なまちづくりの観点から、住まい環境の豊かさや、象徴的な景観の創造、交流やコミュニティの活性化、健康増進、環境学習等に積極的に活かしていくことが必要です。

課題② 安全・安心に住み続けることが可能な生活環境の充実

- 防災、防犯、保健・医療・福祉体制の充実など、安全・安心なまちづくりを推進することが必要です。

- 身近な買物環境の充実や、下水道の整備など、身近な生活環境の充実を図っていくことが必要です。

- 駅周辺や主要道路、公共施設等において、バリアフリー化を促進し、高齢者も含めて、すべての人が移動しやすい交通環境の充実を図っていくことが必要です。

課題③ 定住魅力を強化する広域的な都市機能の強化

- 生駒駅等の拠点駅周辺において、質の高い景観形成や、まちなかの緑化推進、魅力度の高い商業・サービス施設等機能の集積強化を図り、集客力の向上や、利便性を活かした定住促進を図っていくことが必要です。

- 本市の特性である自然環境との調和や良好な住宅地としてのイメージ保持に十分留意しつつ、良好な雇用環境の充実や研究等の産業拠点機能の強化に資する工業・流通・研究施設等について、交通条件や企業立地環境に優れた地区へ誘致促進を図っていくことが必要です。

課題④ 地域の活力を支え都市機能の活用を促進する交通ネットワーク環境の強化

- 南北に細長い本市の各所に分散する、各地域の活力を支えるためにも、都市計画道路等の未整備幹線道路の整備推進を図っていくことが必要です。

- 駅へのアクセス道路の改善や、駅周辺における駐車・駐輪対策の充実、利用者ニーズに対応したバスサービスの充実等、高齢者も含めて、すべての人が移動しやすい交通環境の充実を図っていくことが必要です。

- 市街地内の狭隘道路の整備や、主要な歩行経路における歩道の整備、交通規制対策等を図っていくことが必要です。

課題⑤ 協働のまちづくりの推進

- まちづくりの各種課題の解決や、将来に向けての一層のまちの発展を着実に実現していくためには、「まちづくりの主体は市民である」との基本的な考え方にに基づき、施策・事業の計画段階から実施段階に至るまで、様々な情報提供を行うなどにより、市民参画の機会を確保し、市民・事業者・行政の協働を推進していくことが必要です。

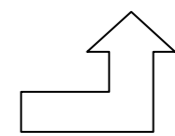
課題修正のポイント

■ まちづくりの目標を見据えた修正内容

一定の都市基盤が整ってきた生駒市において、特に、**地域固有の自然等の資源を活かしたまちの環境の魅力強化**とともに、**安全・安心ニーズの高まりに対応した居住継続を支える生活環境の充実が重要**と考えることから、課題①と②を冒頭に配置するなど、課題の並べ順を再編した。

■ 前回委員会意見を踏まえた修正内容

課題②と④について、交通機能に関する課題が重複・輻輳し、わかりにくかったことから、**交通機能を再編し、バリアフリー関連は課題②(安全・安心)に、基本的な交通関連は課題④(交通ネットワーク)に再配置した。**



5) まちづくりの目標(案)について ~ 主要課題や総合計画の理念・目標を踏まえた「まちづくりの目標(案)」~

まちづくりの主要課題 (修正案)

- ① 地域資源の保全と最大活用による定住環境の魅力化と交流活性化
- ② 安全・安心に住み続けることが可能な生活環境の充実
- ③ 定住魅力を強化する広域的な都市機能の強化
- ④ 地域の活力を支え都市機能の活用を促進する交通ネットワーク環境の強化
- ⑤ 協働のまちづくりの推進

第5次生駒市総合計画 (基本構想) (案)

【将来都市像とまちづくりの目標】

【将来都市像】

市民が創る めくもりと活力あふれるまち・生駒

【まちづくりの目標】

- I 市民が主役となってつくる、参画と協働のまち
- II 子育てしやすく、だれもが成長できるまち
- III 環境にやさしく、自然と都市機能が調和した、住みやすいまち
- IV いつでも安全、いつまでも安心して暮らせるまち
- V 地域の資源と知恵を活かし、にぎわいと活力のあるまち

【基本理念】

- (1) 市民主体のまちづくり
まちづくりの主体は市民です。市民主体のまちづくりの基本ルールを定めた条例等に基づき、あらゆる分野における、市民の参画、市民・事業者・行政の協働を推進します。
- (2) 自助・共助・公助
身近な暮らしに関わるまちづくりにおいては、まず「自助」(自分自身が行う)、次に「共助」(周囲や地域が協力する)、そして「公助」(行政が支援する)という考え方を基本とします。
- (3) 持続可能な都市経営
少子・高齢化の進行、増え続ける社会保障経費、厳しい財政状況、地球環境問題の深刻化など、これまでの様々なシステムの持続可能性を大きく揺るがす変化が本市を取り巻いています。こうした変化に対応するため、既存の方法を不断に見直し、次世代へ引き継ぐための持続可能な都市経営を行います。

まちづくりの目標 (案)

【まちづくりのテーマ】

“ ”

【まちづくりの目標】

- 1 みどり豊かで交流さかんなまちづくり**
 - ・人と自然との共生に配慮した、良好な自然環境の保全と継承
 - ・生駒山系の緑、竜田川等の水辺、棚田等の田園風景、歴史的景観、住宅地の生垣など、市民の庭(公共空間)として、身近な暮らしの美を大切に、育て、本市の最大の資産(魅力・付加価値)として未来に残していくようなまちづくり
 - ・特色ある地域資源を活かした交流・地域学習環境の充実など、魅力ある地域づくり
 - ・地域資源のネットワークによる、歩きたくなる、回遊したくなる身近な環境づくり
- 2 安全・安心で快適な生活環境のあるまちづくり**
 - ・防災・防犯・バリアフリー対策、健康活動支援など、さまざまな人々が安全・安心で豊かな都市生活を送ることのできる環境づくり
 - ・生活道路、下水道など、地域課題に対応した生活環境の充実
- 3 個性ある拠点が連携する活力と賑わいあるまちづくり**
 - ・商業・情報・交流などの多様な機能が複合・集積した、個性豊かでにぎわいのある都市拠点の形成
 - ・学研都市の機能集積、良好な自然環境、交通条件等を活かした、学術・研究等の集積強化による、産業創造機能と雇用環境の強化
 - ・生駒・東生駒駅周辺の中心拠点とともに、鉄道利用利便性を活かした、各駅周辺における地域・地区の生活サービス・交流等を支援する拠点が連携するまちづくり
 - ・都市活動を支える幹線道路ネットワークや、全ての人の移動を支える公共交通サービスの充実

【まちづくりの基本姿勢】

- 1 市民による自主創造のまちづくり**
 - ・各地域の実情に応じて、市民が主体的に地域課題の解決や、魅力あふれる地域の環境づくりに取り組むなど、良い意味で競争し、将来像や目標の効率的効果的な実現が図れるような、協働活動の活性化
 - ・まちのフィールドを活用した市民参加型まちづくりの促進により、地域への愛着やコミュニティの増進が図れ、地域力のアップや人材育成が図れるようなまちづくり
- 2 まちの資産を継承する持続可能なまちづくり**
 - ・厳しい財政状況の中、社会環境の変化に伴う各種行政課題に柔軟かつ適切に対応し、まちの良好な資産や元気を維持・継承し、豊かな市民の暮らしやまちの環境を着実に向上させていくような、持続可能で効率的効果的なまちづくりの推進
 - ・地球環境に配慮したまちづくり、非効率な公共投資につながらないコンパクトなまちづくり(拠点機能の集約・連携強化等)

【参考】現都市計画MPの「まちづくりの目標」との関連

現都市計画MPの「まちづくりの目標」

【都市づくりのテーマ】

“未来への飛翔 新しい快適生活空間の創造”

【都市づくりの目標】

- 1 躍動する都市の創造**
 - ・商業・情報・交流などの多様な機能が複合・集積した、個性豊かでにぎわいのある都市拠点を整備し、活力と楽しさのある都市を目指します。
 - ・ビッグプロジェクトである学研都市と京阪奈新線の整備を推進し、21世紀の新たな生駒市を目指します。
 - ・近代都市として必須の機能である道路・鉄道など交通網の整備・充実により、都市活動の効率化・活性化を目指します。
- 2 生活都市の創造**
 - ・地域が持つ自然・歴史・文化などの特性を重視した合理的な土地利用を推進し、豊かな自然を背景にした良好な住環境のもと、魅力ある住宅都市として、さらなる発展を目指します。
 - ・市民生活を支える都市基盤・都市施設の整備・充実を図り、都市的アメニティの満たされた便利で快適な都市を目指します。
- 3 自然と共生する都市の創造**
 - ・人と自然との共生に配慮し、自然が豊富に存在する良好な環境を次の世代へ受け継ぐことを目指します。
 - ・公園・緑地の適正な配置・整備や都市景観の向上・形成により、うるおいやすらぎの創出を目指します。
 - ・「生駒フィールドミュージアム」構想に基づき、さまざまな地域資源を活かした個性豊かな魅力ある都市を目指します。
- 4 安心して暮らせる安全な都市の創造**
 - ・さまざまな人々が安心して豊かな都市生活を送ることのできる環境づくりを目指します。
 - ・総合的な都市防災体制を強化し、緊急時においてライフラインや基本的な都市機能が確保されている、安全な都市を目指します。

都市づくりの主要課題

まちづくりの基本方向

- ・人と「まち」が共生する人間尊重の都市づくりを進め、さらに後世に受け継いでいく都市環境を創り出していくことが必要
- ・理想のまちづくりを実現するために、市民と行政がそれぞれの機能・役割を果たしつつ連携し、協力することが大切
- ・これらを踏まえ、本市の特有の財産である「自然」「文化・歴史」「知恵」をベースに、充実した都市機能と魅力ある都市環境の中で、ゆとりとうるおいを感じることで「快適生活創造都市」を目指す

良好な景観形成に向けての基本的な考え方(案)

- 1 景観資源特性を踏まえ、生駒らしさを構成する良好な景観資源を守る(障害要因の排除・規制も含む)
- 2 良好な景観資源(潜在資源も含む)について、特に景観の拠点・骨格を形成する資源や場所に留意しつつ、積極的に魅せる景観として、質的向上を図り、本市のイメージアップ、地域の魅力向上、景観活動の誘発、交流人口アップ等につなげていく
- 3 景観保全・形成の必要性・メリットと方向性を市民と共有化する
- 4 身近な景観保全・形成活動を活性化・誘発する仕組みを強化する